

産婦人科で手術を受けられる方へ

ID :

氏名 : 様

あなたの術前診断は ☐ 子宮頸部高度異形成 ☐ 子宮頸部上皮内癌 ☐ 子宮頸部微小浸潤癌
☐ その他()と考えられます。

予定術式は子宮頸部円錐切除術です。

※手術中の判断により、予定された術式が変更となったり、他の術式を追加する場合があります。

【手術の危険性、合併症】

- ・出血、輸血
可能な限り輸血はしない方針ですが、輸血しないと生命の危険がある場合など、必要と判断した場合は輸血を行います。
- ・感染症
予防的に抗生物質を投与しますが、感染症となった場合、入院期間が長くなることがあります。
- ・病変の再発・残存
病変が残存したり、再発して再手術や追加治療を行う可能性があります。
- ・子宮頸管の癒着
術後に月経期間の延長や月経困難症、まれに無月経を発症し、処置・手術が必要となることがあります。
- ・子宮頸管の短縮
手術の影響による頸管狭窄などから将来不妊症の原因となる可能性や、妊娠時の切迫流産、早産の原因となる可能性があります。
- ・開腹術への移行
子宮穿孔あるいは止血が困難など、経腔的手術を続けることが危険と判断した場合は、開腹手術に移行します。
- ・腸管の手術の可能性
子宮穿孔が生じた場合、それに伴って腸管の損傷が生じる可能性があり、その場合腸管の切除や人工肛門造設が必要となることがあります。
- ・血栓症
長時間同じ姿勢が続くと血液の流れが悪くなり、血栓を形成し、それが肺の血管を詰まらせる(肺梗塞)ことがあります。血栓を作らせないための予防を行いますが、100%予防する方法はなく、肺梗塞が起きた場合には必要な処置、治療を行います。肺の大きな血管が詰まった場合には、呼吸停止、心停止が起こる可能性があります。
- ・術後出血、再手術
出血がないことを確認してから手術を終了しますが、手術後に時間が経ってから出血が始まる場合があります。自然に止血する場合もありますが、持続する場合は再手術を必要とする場合があります。この手術では術後2週目に再出血する可能性があり、緊急入院などの処置を必要とする場合があります。
- ・しびれ、運動障害
術後に関節の痛みや運動障害が起こることが稀にあります。運動障害の程度はさまざまで、一過性のものから間数ヶ月のリハビリが必要となることもあります。
- ・その他
手術前には予想できない合併症が起こる可能性もあり、その場合は状況により適切な処置を行います。
手術で摘出した病変を病理検査し、最終的な診断を決定します。約2週間かかるため、通常退院後に外来で説明しています。診断結果により追加の治療が必要となる場合があります。

ID :

氏名 :

様

産婦人科で手術を受けられる方への説明・同意書

別紙「産婦人科で手術を受けられる方へ」使用にて説明いたしました。

私は上記の医療行為についてその必要性和内容、また、状況に応じた内容の変更、起こり得る危険性について説明致しました。

説明日 20 年 月 日

説明担当医師

同席者・確認者

私は上記の医療行為の説明を受け、実施に同意致します。

同意日 20 年 月 日

患者署名

家族等署名 (続柄:)

本人、家族が署名できない理由

職種 ☐ 医師 ☐ 看護師 氏名

ご不明な点がございましたら主担当医までお問い合わせ下さい。

河北総合病院 本院 : 03-3339-2121 (代表)